

文部科学省

大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム
「教員養成コンソーシアム四国」情報

平成23年10月17日(第37号)

コンソーシアム

徳島文理大学

「教員養成コンソーシアム四国」事務局

伝統文化を学ぶ 能、狂言体験教室が開かれました

10月1日(土)、徳島文理大学徳島キャンパス アカンサスホールで「教員養成コンソーシアム四国」主催の「能、狂言体験教室」が、開催されました。当日は、小学生、大学学生、大学教職員、現職の小中高等学校教員、一般参加の皆さん 70名が参加をして、講師の先生のお話を聞いたり、能、狂言の体験をしたりしました。

はじめに、観世流シテ方で NPO 法人徳島能楽振興会理事の高橋京子さんより、能の歴史や演目、能舞台、装束、楽器などの説明をいただき、参加者全員で「高砂」の一節を謡いました。続いて「高砂」の舞を拝見しました。

和泉流狂言方で能楽協会会員の小笠原匡さんからは、狂言の歴史や特徴、体の動かし方や声の出し方などの解説をいただき、その後、参加者が舞台上昇って小笠原さんと一緒に狂言の言葉で自己紹介をしたり、笑い方の演技をしたりしました。

最後に、小河原匡さんと長男で小学校4年生の小笠原弘晃さんによる狂言「痺」(しびり)を観ました。主人からの言いつけで遣いに行くのを「痺れ」を理由に断る召使いと主人とのやりとりがおもしろく、室町時代の言葉と現代の言葉の隔たりを越えて楽しむことができました。



能舞台の説明



能「高砂」の舞



狂言の体験



狂言「痺」の一場面

伝統文化の教育 なぜ伝統文化なのか

社会の変化により、大人も子どもも伝統文化に触れる機会が減少してきています。しかしながら、伝統文化は今なお受け継がれ人々の生活やものの見方考え方の基盤になっています。教育においても、伝統文化の占める役割は大きいと言えます。

今年度より実施されている小学校学習指導要領総則にも「…伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、…」のように、教育の場での伝統と文化の尊重が謳われています。教師をめざす学生の皆さんも、日本の伝統文化、さらには外国の伝統文化にも深い理解と尊敬を持ち教育に携わることが大切です。

能、狂言は教科書にも取り上げられています

狂言の演目「柿山伏」が、小学校の6年生の国語の教科書(光村図書)に取り上げられています。また、能、狂言は6年生の社会の教科書で室町時代の文化として大きく取り上げられています。

徳島文理大学「教員養成コンソーシアム四国」事務局

TEL 088-602-8048

E-mail kyoin-consortium@tks.bunri-u.ac.jp

E-mail consortium@tks.bunri-u.ac.jp